

## 2023年漁業センサスの調査結果概要

### ◆漁業センサスとは

漁業センサスは、我が国の漁業の生産構造、就業構造、漁村、水産物流通・加工業等の漁業を取り巻く実態を把握し、我が国の水産行政の推進に必要な基礎資料を作成することを目的に、5年ごとに水産業を営んでいるすべての世帯や法人を対象に全国一斉に行われている。

2023年漁業センサスは漁業経営体（利潤又は生活の資を得るために、生産物を販売することを目的として、海面において水産動植物の採捕又は養殖の事業を営んだ世帯又は事業所）を対象に令和5年（2023年）11月1日現在で実施された。

### ●統計表中の符号の用法は次のとおりである。

「0」：単位未満

「-」：該当数字なし

「△」：マイナス



# 漁業センサス

## 調査結果の概要

### ◆漁業経営体数

#### (1) 総経営体数

令和5年11月1日現在における長崎市の漁業経営体数は417経営体で、前回（平成30年）調査に比べ、85経営体（16.9%）減少した。

長崎県全体の経営体数は4,804経営体で、本市はその8.7%を占める。

表1 経営体数の推移

年次	長崎市	長崎県
平成30年	502	5,998
令和5年	417	4,804
増減率(%)	△16.9	△19.9

#### (2) 地区別、経営組織別経営体数

地区別にみると、東長崎地区が81経営体で全体の19.4%を占めており、前回調査に比べ17経営体（26.6%）増加している。

経営組織別にみると、個人経営体は393経営体で全体の94.2%を占めているが、前回調査に比べて83経営体（17.4%）減少した。

団体経営体は24経営体で、前回の26経営体から2経営体（7.7%）減少した。

表2 地区別経営体数

地区別	平成30年	令和5年	増減数	増減率(%)
総数	502	417	△85	△16.9
琴海	66	44	△22	△33.3
外海	17	17	0	0.0
新三重	32	30	△2	△6.3
福田	41	37	△4	△9.8
長崎西部	5	7	2	40.0
長崎港	5	2	△3	△60.0
長崎東部	16	12	△4	△25.0
深堀	12	4	△8	△66.7
茂木	62	36	△26	△41.9
網場	10	5	△5	△50.0
東長崎	64	81	17	26.6
香焼	6	9	3	50.0
伊王島	18	12	△6	△33.3
高島	7	6	△1	△14.3
蚊焼	18	16	△2	△11.1
為石	23	23	0	0.0
野母崎北部	51	49	△2	△3.9
野母崎南部	49	27	△22	△44.9

図1 地区別経営体数の構成比

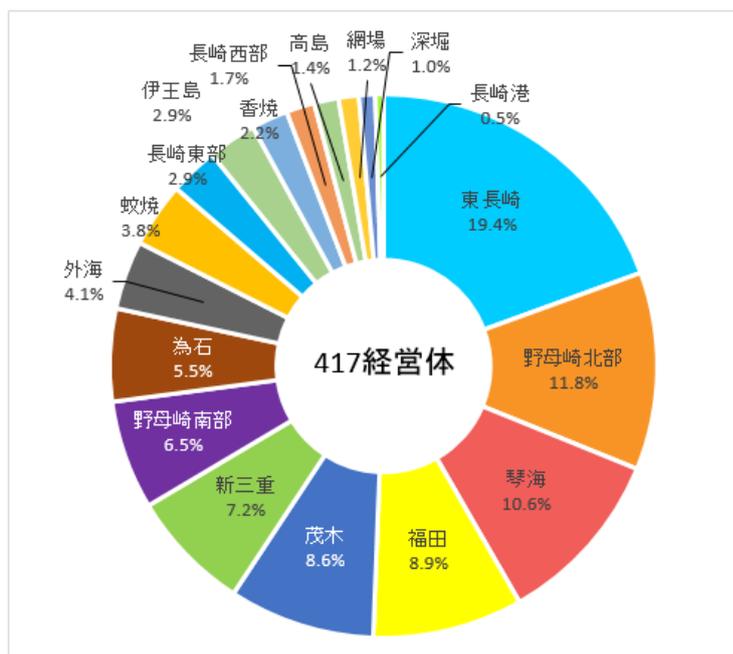


表3 地区別経営組織別経営体数

地区別	総数	個人漁業経営体数			団体漁業経営体数					
		小計	専業	兼業	小計	会社	漁協	生産組合	共同経営	その他
平成30年	502	476	269	207	26	24	-	-	2	-
令和5年	417	393	209	184	24	22	-	-	2	-
琴海	44	38	11	27	6	6	-	-	-	-
外海	17	17	10	7	-	-	-	-	-	-
新三重	30	26	19	7	4	2	-	-	2	-
福田	37	37	1	36	-	-	-	-	-	-
長崎西部	7	6	-	6	1	1	-	-	-	-
長崎港	2	x	x	x	x	x	x	x	x	x
長崎東部	12	11	6	5	1	1	-	-	-	-
深堀	4	x	x	x	x	x	x	x	x	x
茂木	36	36	31	5	-	-	-	-	-	-
網場	5	5	4	1	-	-	-	-	-	-
東長崎	81	74	48	26	7	7	-	-	-	-
香焼	9	9	5	4	-	-	-	-	-	-
伊王島	12	12	7	5	-	-	-	-	-	-
高島	6	6	3	3	-	-	-	-	-	-
蚊焼	16	15	6	9	1	1	-	-	-	-
為石	23	23	6	17	-	-	-	-	-	-
野母崎北部	49	48	30	18	1	1	-	-	-	-
野母崎南部	27	26	19	7	1	1	-	-	-	-

x 秘匿での回答

(3) 経営体階層別経営体数

漁業経営体を経営体階層別で見ると、構成比に大きな変化はないが前回調査に比べ、大規模漁業層以外の階層は減少している。

表4 経営体階層別漁業経営体数

区分	平成30年	令和5年	構成比		増減率(%)
			平成30年	令和5年	
漁業経営体数	502	417	100.0%	100.0%	△ 16.9
沿岸漁業層	490	409	97.6%	98.1%	△ 16.5
うち海面養殖層	35	30	7.0%	7.2%	△ 14.3
中小漁業層	11	7	2.2%	1.7%	△ 36.4
大規模漁業層	1	1	0.2%	0.2%	0.0

(4) 営んだ漁業種類別経営体数

営んだ漁業種類別経営体数でみると、前回調査に比べ、船びき網と大型定置網が皆減(100.0%)、はえ縄が16経営体(37.2%)、底びき網が42経営体(34.4%)の減少となっている。

また、潜水器漁業が1経営体(100.0%)、その他の漁業が8経営体(11.6%)、釣が23経営体(10.9%)の増加となっている。

表5 営んだ漁業種類別経営体数

経営体階層	経営体数		増減数	増減率(%)
	平成30年	令和5年		
漁業経営体数(実数)	502	417	△ 85	△ 16.9
底 び き 網	122	80	△ 42	△ 34.4
船 び き 網	4	-	△ 4	△ 100.0
ま き 網	9	7	△ 2	△ 22.2
刺 網	119	98	△ 21	△ 17.6
大 型 定 置 網	1	-	△ 1	△ 100.0
小 型 定 置 網	22	17	△ 5	△ 22.7
そ の 他 の 網 漁 業	15	16	1	6.7
は え 縄	43	27	△ 16	△ 37.2
釣	211	234	23	10.9
潜 水 器 漁 業	-	1	1	100.0
採 貝 ・ 採 藻	88	65	△ 23	△ 26.1
そ の 他 の 漁 業	69	77	8	11.6
海 面 養 殖	65	56	△ 9	△ 13.8

※複数回答項目のため、漁業種類別の合計と漁業経営体数(実数)は一致しない。

(5) 漁獲物・収穫物の販売金額別経営体数

漁獲物・収穫物の販売金額別経営体数をみると、100万円未満の経営体がもっとも多く、次いで100～300万円となっている。

表6 漁獲物・収穫物の販売金額別経営体数

区分	平成30年	令和5年	構成比		増減数	増減率(%)
			平成30年	令和5年		
総数	502	417	100.0%	100.0%	△ 85	△ 16.9
販売金額なし	2	1	0.4%	0.2%	△ 1	△ 50.0
100万円未満	249	227	49.6%	54.4%	△ 22	△ 8.8
100～300	128	91	25.5%	21.8%	△ 37	△ 28.9
300～500	52	48	10.4%	11.5%	△ 4	△ 7.7
500～800	23	21	4.6%	5.0%	△ 2	△ 8.7
800～1,000	5	1	1.0%	0.2%	△ 4	△ 80.0
1,000～1,500	8	3	1.6%	0.7%	△ 5	△ 62.5
1,500～2,000	6	3	1.2%	0.7%	△ 3	△ 50.0
2,000～5,000	7	4	1.4%	1.0%	△ 3	△ 42.9
5,000万円～1億円	5	5	1.0%	1.2%	0	0.0
1億円～2億円	9	5	1.8%	1.2%	△ 4	△ 44.4
2億円～5億円	3	3	0.6%	0.7%	0	0.0
5億円～10億円	2	3	0.4%	0.7%	1	50.0
10億円以上	3	2	0.6%	0.5%	△ 1	△ 33.3

## ◆漁業就業者数

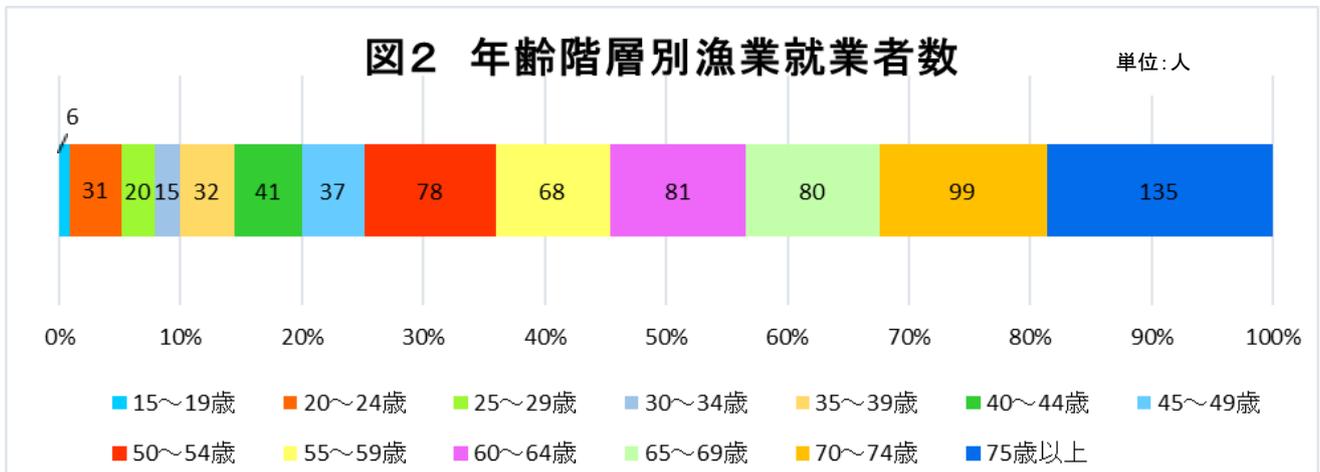
### (1) 年齢階層別漁業就業者数

漁業就業者数は723人で、前回調査に比べ213人(22.8%)減少した。

年齢別で見ると、15～19歳で1人、20～24歳で10人、25歳～29歳で6人、40～44歳で3人、75歳以上で3人の増加となったが、それ以外の区分では減少している。

表7 年齢階層別漁業就業者数

区分	平成30年	令和5年	構成比		増減数	増減率(%)
			平成30年	令和5年		
漁業就業者計	936	723	100.0%	100.0%	△ 213	△ 22.8
15～19歳	5	6	0.5%	0.8%	1	20.0
20～24歳	21	31	2.2%	4.3%	10	47.6
25～29歳	14	20	1.5%	2.8%	6	42.9
30～34歳	22	15	2.4%	2.1%	△ 7	△ 31.8
35～39歳	38	32	4.1%	4.4%	△ 6	△ 15.8
40～44歳	38	41	4.1%	5.7%	3	7.9
45～49歳	80	37	8.5%	5.1%	△ 43	△ 53.8
50～54歳	90	78	9.6%	10.8%	△ 12	△ 13.3
55～59歳	112	68	12.0%	9.4%	△ 44	△ 39.3
60～64歳	119	81	12.7%	11.2%	△ 38	△ 31.9
65～69歳	145	80	15.5%	11.1%	△ 65	△ 44.8
70～74歳	120	99	12.8%	13.7%	△ 21	△ 17.5
75歳以上	132	135	14.1%	18.7%	3	2.3



## ◆漁船隻数

### (1) 漁船隻数・動力漁船トン数規模別隻数

漁船の総隻数は665隻で、前回調査に比べ155隻(18.9%)減少した。

動力漁船をトン数規模別で見ると、3～5トンがもっとも多く179隻、次いで1～3トンが95隻となっている。

表8 漁船隻数・動力船トン数規模別隻数

区分	平成30年	令和5年	構成比		増減数	増減率(%)
			平成30年	令和5年		
漁船総隻数	820	665	100.0%	100.0%	△ 155	△ 18.9
無動力漁船隻数	8	11	1.0%	1.7%	3	37.5
船外機付漁船隻数	339	249	41.3%	37.4%	△ 90	△ 26.5
動力漁船	473	405	57.7%	60.9%	△ 68	△ 14.4
1トン未満	10	43	1.2%	6.5%	33	330.0
1～3	125	95	15.2%	14.3%	△ 30	△ 24.0
3～5	234	179	28.5%	26.9%	△ 55	△ 23.5
5～10	41	35	5.0%	5.3%	△ 6	△ 14.6
10～20	49	50	6.0%	7.5%	1	2.0
20～30	-	-	-	-	-	-
30～50	1	-	0.1%	-	△ 1	△ 100.0
50～100	5	1	0.6%	0.2%	△ 4	△ 80.0
100～150	2	-	0.2%	-	△ 2	△ 100.0
150～200	-	-	-	-	-	-
200～350	6	1	0.7%	0.2%	△ 5	△ 83.3
350～500	-	-	-	-	-	-
500～1,000	-	1	-	0.2%	1	100.0
1,000トン以上	-	-	-	-	-	-

図3 漁船隻数・動力漁船トン数規模別隻数

単位:隻

